

臨床現場で役立つ

ドレッシング材の上手な使い分け

前川武雄 (自治医科大学皮膚科学教室准教授)

本コンテンツはハイブリッド版です。PDF だけでなくスマホ等でも読みやすい HTML 版も併せてご利用いただけます。

▶HTML 版のご利用に当たっては、PDF データダウンロード後に弊社よりメールにてお知らせするシリアルナンバーが必要です。

▶シリアルナンバー付きのメールはご購入から 3 営業日以内にお送り致します。

▶弊社サイトでの無料会員登録後、シリアルナンバーを入力することで HTML 版をご利用いただけます。登録手続きの詳細は <https://www.jmedj.co.jp/page/resistration01/> をご参照ください。

▶登録手続

1. ドレッシング材の種類	2
2. ドレッシング材の選択	3
フィルムドレッシング	4
創傷被覆材	5
保険償還されないドレッシング材	16
3. おわりに	17
巻末表 創傷被覆・保護材等一覧	18

▶HTML 版を読む

日本医事新報社では、Web オリジナルコンテンツを制作・販売しています。

▶Webコンテンツ一覧

Point

- ▶ ドレッシング材を用いる創傷の状態を適切に評価する
- ▶ 各ドレッシング材の利点・欠点を理解する
- ▶ 使用するドレッシング材にどんな効果を期待するかを考える

1. ドレッシング材の種類

ドレッシング材は、以前は創傷を覆う用品全般のことを意味し、ガーゼや包帯なども含めた幅広い概念であった。しかしながら近年では、創傷の湿潤環境を保ち、創傷に固着しないよう作られた近代的な製材という定義が日本皮膚科学会、日本形成外科学会、日本褥瘡学会などから出されており、従来の滅菌ガーゼ等は除く概念となっている。現在ドレッシング材として扱われる製品には以下のようなものが挙げられる(表1)。

表1 ドレッシング材一覧

ドレッシング材の種類	医療機器区分	特徴	保険償還
フィルムドレッシング	クラスI, II	創を密閉し、湿潤環境を保つ。4種のみがクラスII	×
救急絆創膏	クラスI	近年、創傷被覆材に近い効果を持つ製材が登場	×
シリコンガーゼ	クラスII	創傷との固着を防ぎ、湿潤環境を保つ	○
創傷被覆材	クラスII, III	湿潤環境に加え、抗菌作用、止血作用など多彩な機能	○
親水性ビーズ	クラスIII	滲出液の吸収、細菌や壊死の吸着作用	○
人工真皮	クラスIII	高度な肉芽形成作用	○
陰圧創傷治療システム	クラスIII	滲出液の管理、肉芽増生、創収縮など多彩な機能	○

中でも創傷被覆材はドレッシング材と同義語として扱われることがあるが、実際には定義が異なるものである点も注意すべきである。創傷被覆材とは薬機法上「特定保険医療材料」に分類される製品でドレッシング材の種

類の1つであり、診療報酬による保険償還も可能な製品である。

一方フィルムドレッシングは「保険医療材料」に分類される製品で、「特定」がつかない。「保険医療材料」は保険償還されない医療機器であり、「特定保険医療材料」とは明確に区分されている。創傷被覆材のほか、シリコンガーゼ、親水性ビーズ、人工真皮、陰圧創傷治療システムなどが「特定保険医療材料」に分類される。

2. ドレッシング材の選択

非常に多くのドレッシング材が発売されているが、すべての創傷に万能な製材はいまだ登場していない。各ドレッシング材にはそれぞれの持つ特徴があり、利点もあれば欠点もあるため、それらを天秤にかけて製材を選択することになる。そのためには創傷の状態を適切に判断し、その創傷に何が一番必要かを考えなければならない。

たとえば、止血効果を得たいときは抗菌効果を持つ製材や壊死組織を融解する効果を持つ製材よりも、まずは止血効果を持つ製材を選択すべきであり、その際抗菌作用や壊死組織融解作用は二の次となる。ドレッシング材の選択にあたっては、創傷の状態を適切に把握することに加え、各製材の特性も理解しておく必要がある。

各ドレッシング材の持つ特性として製材間で大きく異なるものは、壊死組織融解作用、抗菌作用、バイオフィルムの抑制効果、滲出液の吸収力、皮膚への粘着力、止血作用などである。この中の複数の作用を持つ製材もあるため、なるべく多くの問題を解決できる製材を選択することになる。

表3 深さによる創傷被覆材の適応

適応	保険償還価格
真皮に至る創傷	6円/cm ²
皮下組織に至る創傷	標準型:10円/cm ² 異形型:35円/g
筋・骨に至る創傷	25円/cm ²

ただし、**真皮までの創傷に対し、皮下組織に至る創傷用の創傷被覆材を使用した場合など、適応のない創傷に使用した場合はどちらの点数も保険算定できない**ため、創の深さに応じた製材を選択しなければならない。

ハイドロコロイド

吸収量	吸収速度	粘着性	透明性	クッション性
2	2	5	3	3

5が最高, 1が最低を示す(以下同)

- ▶粘着性, 防水性を持つ
- ▶滲出液の吸収量は少ない
- ▶軽微な創傷や, あるいは滲出液の量が減ってきた治療の後半, また比較的硬い製材のため, 平坦な創傷に適する

ハイドロコロイドは創傷被覆材の中で最も歴史の長い製材であり, 本邦では1986年に登場したデュオアクティブ[®]がはじめての製品である。真皮までの創傷用と皮下組織までの創傷用を併せて, 現在13種類の製品が発売されている(表4)。また, BAND-AID[®]キズパワーパッド[™]など市販品で購入可能なハイドロコロイド製材も多数発売されている。

表4 ハイドロコロイド

適応	製品名	銀含有	製造販売元/販売元
真皮に至る 創傷	デュオアクティブ® ET		コンバテック ジャパン (株)
	テガダーム® ハイドロコロイド ライト		スリーエム ジャパン (株)
	アブソキュアー® サジカル		日東電工 (株) / (株) ニトムズ
	レプリケア® ET		スミス・アンド・ネフュー (株)
	バイオヘッシブ® Ag ライト	○	アルケア (株)
皮下組織に 至る創傷	コムフィール®		コロプラスト (株)
	コムフィール® プラス		
	デュオアクティブ®		コンバテック ジャパン (株)
	デュオアクティブ® CGF		
	アブソキュアー® ウンド		日東電工 (株) / (株) ニトムズ
	テガダーム® ハイドロコロイド		スリーエム ジャパン (株)
	レプリケア® ウルトラ		スミス・アンド・ネフュー (株)
バイオヘッシブ® Ag	○	アルケア (株)	

ハイドロコロイドは、滲出液の吸収量は少なく、全体が粘着性を持っており、防水性を持つ製材である。比較的浅い創傷、軽微な創傷や、あるいは滲出液の量が減ってきた治療の後半に使いやすい。製材は比較的硬い素材であり、凹凸の強い創傷では密着を得ることが難しいため、平坦な創傷に適する。

また、バイオヘッシブ® Ag ライト (真皮までの創傷用) やバイオヘッシブ® Ag (皮下組織に至る創傷用) はスルファジアジン銀を含有し、抗菌効果も期待できる製材である。

ハイドロジェル

吸収量	吸収速度	粘着性	透明性	クッション性
1	1	1	5	1